

今年は4年に1度のFIFAワールドカップ(W杯)の開催年である。4年前の6月23日、私はモスクワに向かうため成田空港出発ロビーにいた。サッカー観戦ロシア旅行の始まりだ。日本代表は19日のロシアに続き、24日にウラル山脈麓のエカテリンブルクでセネガルと、28日に広島市の姉妹都市ボルゴグラードでポーランドと1次リーグを戦うことになっていた。

# 想



ながま たけし  
長沼 毅

## ロシアW杯の記憶

モスクワ到着の翌日、エカテリンブルクへ。試合はセネガル相手に2-2の引き分け。ロシア戦に勝っていた日本はこの時点で勝ち点4、セネガルと並んでグループ首位に立った。次の日はウラル大のアンナ先生のガイドで市内観光に出かけた。ピョートル大帝の妻エカテリーナにちなみ、欧州への玄関口のペテルブルクと同様、アジアへの玄関口として名づけられ

たエカテリンブルク。それまで存在すら知らなかった都市名の由来に納得。ロシア革命で皇帝ニコライ2世が妻子とともに連行・銃殺され、ロマノフ王朝が終焉したのがこの地であったことも初めて知った。

次の試合までの中2日はモスクワに帰り市内観光。地下鉄を乗り継いでの観光は、乗り換えや出口までの英語表示も少なかつたが、近くにいたおばさんに

尋ねたら、黙ったまま目的地に連れて行ってくれるなど、それはそれで楽しいものだった。ボルゴグラードではインターネットで試合会場に近い部屋を探して民泊。知らない土地でも何とかなるものである。試合はポーランドに0-1で敗れたが、日本はグループ2位でベスト16進出が決まった。宿主の夫婦は翌日の観光ガイドも引き受けてくれ、スターリングラード(広島県サッカー協会副会長)